

ると聞かされ、どんなに神様を恨んだことでしょう。メヴェール症候群という奇形児で顔面神経痛、自傷性を持っていました。当時は長く生きられないという診断でしたが、病院側の献身的な治療、福祉施設の指導により、^{まどか}円専用の靴を作って頂き、歩くことは出来るようになりました。^{まどか}円が生まれ、間もなく^{まどか}円の父、弟も突然心筋梗塞で亡くなりました。現在は霧島の福祉施設で生活をし、週に一度妹と家で過ごす日課となっています。こちらから伝えることは理解が出来ているようですが、意志を伝えることが出来ないため、自分を傷つけ、体中がアザと出血が絶えません。私が帰省した際、必ず^{まどか}円は、体で嬉しさを表現してくれます。^{まどか}円なりに走って来てくれます。帰る際「また帰ってくるからね」というと涙を流して悲しんでくれます。私たちと、私たちの子供はみんな普通に、当たり前のように^{まどか}円に接していたのですが、孫は、とにかくこの世ではじめて見る姿に、人として見る事が出来なかったのか大声で泣きながら隠れました。その時のことは昨日のように覚えています。それ以来、妹は平原家で家族が集まる際は、^{まどか}円を連れてくることはありませんでした。このことで、妹をどれだけ傷つけてしまったか、恥ずかしい限りです。妹は月に一度、^{まどか}円を鹿児島大学病院に治療に通っています。病院の先生をはじめ、皆さんが^{まどか}円を人として扱ってくれるという言葉が、自分達の家族のあり方、^{まどか}円を通じて教えてくれています。現在、^{まどか}円は31歳です。普通であれば女性として一番いい時です。

4女の妹、裕子のことを話します。妹は西成のあいりん地区にある社会医療センターに看護婦として勤めておりました。阪神淡路大震災が1月17日に起こり、被災の中、妹の裕子は大阪の比花区のマンション9階に住んでいました。1月25日、妹は仕事を終え、2人の子どもを預けてある保育園に迎えに行く途中、医療センター前の横断歩道で信号待ちをしていた時、突然背後から出刃包丁で刺され出欠多量で倒れ込んでしまいました。近くにいた方が通報し、救急処置をとって頂き、かろうじて命は助かりました。その4日後、犯人らしき人から、社会医療センターに電話があり、「あれやったんは、俺や あの看護婦さんは大丈夫やったんか、ほんまは外科の先生やりたかったんや」と電話が入りました。でも犯人逮捕にはなかなか結びつきませんでした。傷は腎臓や肝臓にも達し筋肉を損傷し、痛みがひどく今はモルヒネで痛み止めを頼っているようです。あれ以来車椅子生活になり、寝たり起きたりの生活に変わってしまいました。

その後、義理の弟と弁護士さん数名で、全国犯罪被害者の会、「あすの会」を発足しました。犯罪被害者の権利を主

張して、全国での被害者への呼びかけ、署名運動、後援活動、国会への陳情を経て、ようやく2004年12月1日、犯罪被害者等基本法が成立しました。妹の事件をきっかけに、裁判員裁判の礎を作ったと思います。

子供たちに少しずつ移行しておりますが、これから私に出来ることは何かと思った時、自分が何とかここまで頑張ってきたのは、この環境の中だったからだと思います。

また、父のホランティアの精神を少しだけマネしてみようと思いました。数か月前に入会させて頂いて偉そうなことを言っているかもしれませんが、まだまだ、周りには障害者ももっともっていると思います。イベントに参加するために出向くことが出来ない方もいられます。そういう方のために、こちらから訪問する方法も考えて頂ければと思います。優秀な子供たちを育てるために、奨学金への寄付もいいことだと思いますが、まずはそこへたどり着くまでにない、不幸な子供たちは沢山います。障害者も普通の子供として扱ってほしいのです。触れ合いを沢山作って欲しいのです。そうすることにより、五体満足に産んで頂いた、両親への感謝の気持ちも現れ、いじめ、自殺も減るのではないかなと思っております。

私は会社の経費から会費、寄付等をさせて頂いているわけではありません。自分の少ない給料の中から奉仕させて頂いております。

ロータリーの目的、理念とは違うことを話しているかもしれません。「あなたの考えは、ロータリアンではない」と言われるかもしれません。辞退してくださいと言われても仕方ありません。その時は、潔く引きます。そんな覚悟で秦野中ロータリークラブに入会致しました。



新会員研修会&歓迎会を行いました。